

項目		説明
試料・情報の	研究課題名	AML における FM ベースと CYTBI ベースの前処置を用いた造血幹細胞移植成績の比較
利用目的 及び 利用方法	研究対象者	2015 年 1 月から 2025 年 6 月までにフルダラビン+メルファランベースもしくはシクロホスファミド+全身放射線照射ベースの前処置後に造血幹細胞移植を受けた急性骨髄性白血病患者さん
	研究目的	造血幹細胞移植 (SCT)は急性骨髄性白血病 (AML) に対する根治的な治療です。SCT の前処置には、治療強度が強いが副作用の大きい骨髄破壊的前処置 (MAC) と治療強度が弱いが副作用も小さい強度減弱前処置 (RIC) があります。MAC と RIC の選択には、年齢が重要な要素であり、先行研究では MAC の恩恵を受ける患者さんは 55 歳以下と報告されていますが、一致した見解が得られておりません。当院では 55 歳以下の SCT において、過去にはシクロホスファミド+全身放射線照射 (CYTBI) ベースの MAC を行っていましたが、近年 RIC であるフルダラビン+メルファラン (FM) ベースの前処置を積極的に行っています。今回は AML における SCT において、CYTBI ベースと FM ベースの前処置による SCT 成績を比較することを目的としました。
	研究方法	日本造血・免疫細胞療法学会及び日本造血細胞移植データセンターが実施している全国調査で収集する造血細胞移植登録一元管理プログラム (TRUMP®) のデータベースがあります。TRUMP のデータベースから本研究の対象患者さんの情報を抽出します。
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できないように研究用の番号 (識別コード) で管理します。個人と識別コードを照合できるようにする対応表を作成しますが、パスワードロックや鍵をかけて厳重に保管し、院外へ提供することはありません。
	研究期間	西 暦 2 0 2 5 年 8 月 2 5 日 ~ 西 暦 2 0 2 8 年 1 2 月 3 1 日
	利用又は提供を開始する時期	[×]総長が研究実施を許可した日 [] 西暦 年 月 日頃 (研究の進捗によって前後いたします)
利用する試料・情報の項目 (チェック [X]が入った項目を利用します)	[]試料:	[]血漿、[]血清、[]全血、[]末梢血から抽出した DNA、 []病理検体(具体的に記載:____)、 []尿、[]糞便、[]唾液、[]胸水、[]腹水、[]脳脊髄液、 []毛髪、[]その他(具体的に記載:____)
	[×]情報:	[×]診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[×]年齢、[] 生年月日、[×]性別、[×]既往歴、[×]併存疾患、[]外来日・入院日・退院日、[×]臨床検査値、[]放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、[×]臨床所見・経過 (予後追跡データを含む)、[] ゲノムデータ、[]看護記録、[]その他(具体的に記載:____)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター研究責任者	血液内科・穂本昌寛
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口	神奈川県立がんセンター血液内科 穂本昌寛 045-520-2222 利用停止のお申し出は 2025 年 12 月 31 日までにお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります	